

性別による思い込み、ありませんか？

男女共同参画啓発ページ

女と男のコスモスネット

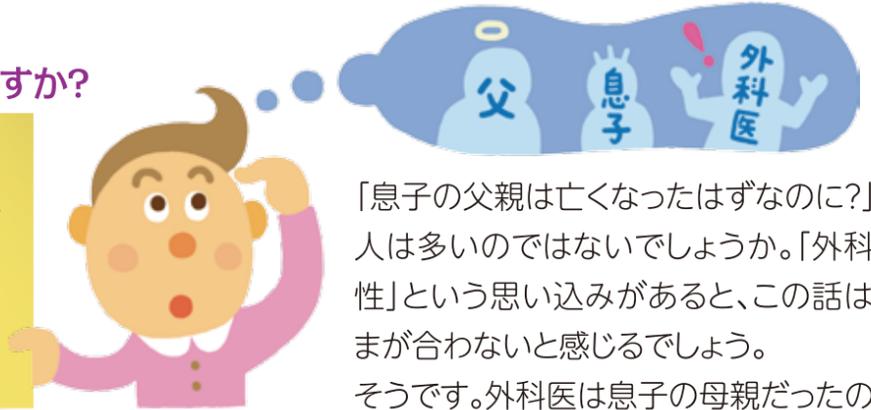
人権政策課 ☎072-433-7160

私たちは長年にわたり見聞きしたことや自分の経験から、無意識のうちに様々な思い込みを持つようになります。無意識ゆえに、なかなか気づきにくいものですが、一緒に考えてみませんか。

？ クイズ「私の息子」 次の話を読んで、あなたはどのように感じますか？

父親とその息子が乗った自動車が大型トラックとぶつかる交通事故が起きました。父親は亡くなり、重傷の息子が救急車で病院に運ばれました。

対応にあたった病院の外科医は、その男の子を一目見るなり、「これは私の息子だ!」と悲鳴をあげました。



「息子の父親は亡くなったはずなのに?」と思う人は多いのではないのでしょうか。「外科医=男性」という思い込みがあると、この話はつじつまが合わないと感じるでしょう。

そうです。外科医は息子の母親だったのです。

職場編

次のことから、自分に思い当たることをチェックしてみましょう。

- ① 「子どもの親は単身赴任中」と聞くと、父親のことだと思う
- ② 看護師、保育士というと、女性を思い浮かべる
- ③ 育児中の社員に責任の重い仕事を与えるのは無理だと思う
- ④ 高齢者の介護をしているのは主に女性で、仕事はしていないと思う
- ⑤ パートタイマーは、主婦の家計補助がほとんどだと思う

チェックが多く入った人は、思い込みが少し強いようです。実際はどうでしょうか。

- ① 男性の単身赴任者とともに女性の単身赴任者も増えています。
- ② 男性の看護師、保育士の人数はこの10年間で増えています。
- ③ 「育児中だから責任のある仕事は任せられない」という決めつけは、働く人のやる気をそいでしまう場合があります。
- ④ 同居の主な介護者のうち男性は3割を超えています。また、介護者のうち仕事を持つ人は、男女とも半数を超えています。
- ⑤ 男性の非正規雇用者は年々増加しており、女性の非正規雇用者が働く理由として「家計の補助」を挙げる割合は減少しています。

無意識の思い込みによる「決めつけ」や「押しつけ」があると、職場では、上司の言動により部下がやる気を無くすなどマイナスの影響を及ぼすことがあります。



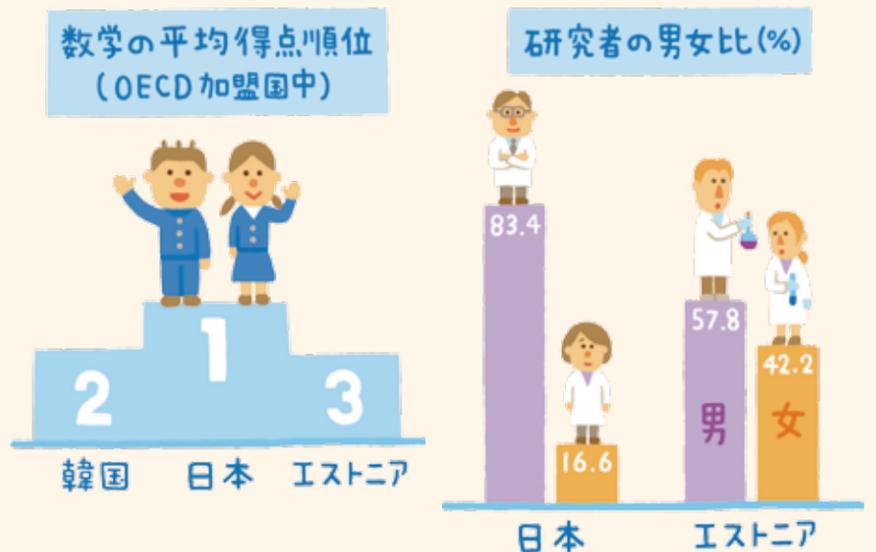
固定的な性別役割分担意識や性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)は、子どもたちの将来の選択肢の幅を狭めたり、一人ひとりの能力の発揮を妨げたりすることにつながりかねません。

自分のなかにある無意識の思い込みに気づくと、あなた自身もラクに生きられるようになるでしょう。

学校編

理系は女子よりも男子に向いている?

15歳の生徒を対象にした国際的な学習到達度調査では、日本の生徒の数学と科学の平均得点はOECD加盟国のうちトップクラスで、男子と女子の得点差はわずかです。しかし、社会に出て理系の研究者や職業に就く女性の割合は他の先進国に比べて低くなっています。



資料:「OECD 生徒の学習到達度調査2018年」
「男女共同参画白書 令和2年版」より

学校の教科授業では、男女平等な教育が行われていますが、周囲が何気なく「男の子だから〇〇、女の子だから〇〇」といった言葉をかけることがあります。

理系は男性が得意、文系は女性といった思い込みも少なからず持たれているのが実態です。女子生徒の理系学力が低いからではなく、周囲の女子生徒の進学傾向や親の意向、自分の将来の職業としてイメージできる身近な手本となる人が少ないなどの環境の影響が大きいと考えられます。

こうした環境を変えようと、国では理系女子の活躍を応援する取組み(理工チャレンジ(リコチャレ)など)が進められています。

